



2007～2008年度  
国際ロータリーのテーマ  
RCは分かちあいの心  
2007～2008年度  
ウィルフレッド J. ウィルキンソン

# Weekly Report

創 立：1980年(昭和55年)1月10日  
会 長：岩本 成郎  
幹 事：西本 哲  
クラブ広報委員：亀井 直人  
例 会 日：毎週木曜日PM12:30～  
会 場：ヒルトン名古屋  
事 務 局：460-0008  
名古屋市中区栄1丁目3-3  
ヒルトン名古屋910号  
T E L：052-211-3803  
F A X：052-211-2623  
M A I L：2760nagoya@mizuho-rc.jp  
U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

## 第1355回例会

～ロータリー世界理解月間～  
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2008年2月18日(月) 晴 第31回

2007～2008年度R.I.第2760地区  
西名古屋分区INTERCITY MEETING  
会場：名古屋観光ホテル「曙の間」「那古の間」

### 第一部 式典並びに講演会

司 会：梶田 知さん  
点 鐘：杉本仁至西名古屋分区ガバナー補佐  
斉 唱：「君が代」「奉仕の理想」

### 歓迎の言葉並びに挨拶

#### 杉本仁至西名古屋分区ガバナー補佐

皆さんこんにちは。本日は国際ロータリー第2760地区西名古屋分区I.M.を開催させていただきましたところ、江崎ガバナーを始め地区の役員の皆様、盛田和昭バスターガバナーを始めとする出席者の方、市内12クラブの会長・幹事様を始めとするメンバーの皆様にも多数出席いただきまして誠にありがとうございます。



西名古屋分区は12ロータリークラブ全150名を要する市内最大の分区であります。私は江崎ガバナー公式訪問の露払いとして市内12クラブの訪問をさせていただきましたが、そのときもとても温かく迎えていただきました。また、会長・副会長・幹事の皆様と大変有意義な時間を持つことが出来ました。各クラブはそのクラブの歴史、伝統など独自の特色を出し、すばらしいロータリー文化を育てておられ大変勉強になりました。心より感謝と敬意を表したいと思います。この素晴らしい12ロータリークラブの会員が一堂に会し、ロータリーの目的・目標を確かめ合い交流することは必要だと思います。今日のI.M.が意義あるものになることを願っております。さて、ガバナー補佐訪問でも申し上げましたがロータリークラブは1905年にアメリカのシカゴでポール・ハリスを始めとする4人のメンバーで始まりました。当時のシカゴは大不況で街は荒れに荒れておりました。そういう時代だからこそロータリークラブが誕生したのだと思います。そしてシカゴに続き、各地にロータリークラブが新設されていきました。各地のロータリークラブ・ロータリアンが自分たちの街を明るく住みやすい街にしようとし、その努力が報われ、明るいモラルのある街が増えてまいりました。地域の住人からロータリーに対する感謝の言葉があがり、ロータリークラブはますます拡大してまいりました。しかしロータリーが誕生して100年以上たち、少し疲労してまいりました。初期の理念も薄れてきました。クラブ運営もマンネリ化し、会員数も減り、解散するクラブも増えてまいりました。事実、日本でピーク時に14万人いた会員数も今は10万人を切っているのが現状です。江崎ガバナーはこの現状を大変心配し、対策を立て改善するよう一生懸命奮闘して

おられます。会場におられる皆様、江崎ガバナーにご協力、ご支援よろしくお願ひ申し上げます。この状況を作ったのは、私は国際ロータリーにあると思っております。国際ロータリーと日本のロータリーの変化の違いだと思います。国際ロータリーの行った、会員数の減少を防ぐためにテリトリーの変更、一業種会員一人の原則の変更、出席規定の緩和等々の施策は日本人の心、精神、そしてロータリー文化と大きくかけ離れていると思います。ロータリーの目標・目的を達成する手段は、日本文化に基づいた日本の手法で行うべきだと思っております。国旗日の丸がロータリー旗に従い縦長に張られていることを多く目にします。日本の国旗は縦横7:10の比率で中央に赤丸と法律で定められております。日本の国旗は国の象徴、何でもアメリカに倣うのではなく我々は日本のロータリー文化を築くべきではないでしょうか。本日は国家の品格の著者藤原正彦さんをお招きしております。本日のI.M.が実りある時間であれば幸甚に感じる次第でございます。

### 特別出席者及び地区委員長紹介

### 参加クラブ紹介

### ガバナー挨拶

#### 国際ロータリー第2760地区：江崎柳節ガバナー

皆さんこんにちは。ここに西名古屋分区のI.M.がこのような盛大に行われることを心からお慶び申し上げます。この分区にはガバナーよりも良い卓話をするガバナー補佐がいると伺っております。今日お伺いし本当にそうであると感じました。このI.M.のテーマが「取り戻そう！日本人の誇りと自信を」という誠に理にかなったもので、私もぜひこれをよく学びたいと思っております。



このように分区を単位とした学ぶ会というのは今のロータリーにとっても重要なことなので今後も是非続けてください。今年度の地区のテーマは「違いをもたらそう」とさせていただきました。これは、ロータリアンというのは極めて稀に見るすばらしい団体、日々進化しようとする志をもった集団であり、これが普通の世の中における「奉仕しよう」「何かいいことをしよう」という団体とは違うということです。今回はこのテーマのもとに、5つのロータリーの問題点を挙げさせていただきます。一つは会員増強の問題。ここにおける会員の増強というのは、クラブにおける会員の維持・リテンションということです。会員に研修を行ったり意欲を喚起しているかどうかということを考えてみなくてはなりません。もう一つは本当に真の任務にあった奉仕が行われているかということです。私どもは奉仕団体でも慈善団体でもありません。専門性豊かな、指導性豊かな、理念に燃える人たちの集団でありますから、地域におけるニーズというのは行政にはできなかった、あるいは現在のシステムでは追いついていないという問題をたぐってそれを地域に、そして国際社会に展開することが必要だと思います。

## 「取り戻そう!日本人の誇りと自信を」

お茶の水女子大学教授「国家の品格」著者 藤原正彦さん



ここ数十年の日本の改革というのはものすごいものでありました。政治家・官僚たちが日本を改革し、それを国民が熱狂的に支持しました。しかし私から見るとそれは、よくぞここまで国柄を壊してくれたという改革でありました。それを壊したのは政治家でも官僚でもなく国民なのです。国民こそがこの祖国日本の敵なのです。今、国民のことを悪く言う人は私くらいしかおりませんが、国民がこのまま

なので日本がだめなのです。外交もだめ、国防もだめ、経済もだめ、そういう状況になっています。

この十年間くらいの改革というのは、ほとんどが市場原理というものによってなされています。市場原理というのは規制緩和・規制撤廃というものです。規制にも、評価しなければならぬ規制や作らなければならぬ規制がたくさんありますが、もちろん緩和・撤廃しなければならぬものもたくさんあります。それらを評価するか撤廃するかということはケース・バイ・ケース、そんなことは明らかです。

例えば6年生と1年生が闘うということになれば、1年生の方にハンデを与える。それが日本の考え方でした。大企業と中小企業であれば当然中小企業をえこひいきしなければならず、中央と地方ならば当然地方を、百姓をえこひいきしなければなりません。しかし、世界はなんでも公平に戦えばいいという自由競争の考えが大好きであり、最近では日本人も以前の日本的な考えを忘れてしまっています。そもそも、公平がなぜそんなに好きなのか。公平な政治をしようとする日本や世界のほとんどの人が言いますが、公平な政治など絶対にしてはいけません。不公平でなければならぬのです。公平の定義とは何なのでしょう。それは人それぞれなのです。例えば東大の入試というのは受験者全員の総合点上位から合格としますが、ケンブリッジ大学では7、8点低い地方の田舎出身の生徒を合格させるのです。それは育った環境がかなり違うにも関わらずたった7、8点しか差がつかなかったその地方出身の生徒の方が将来性があるだろうと考えるからです。それがイギリスの「公平さ」なのです。どちらがいいというわけではありませんが、公平地方出身のというのはどこから見るかで全然違うものなのです。今、国内金融も大変なことになっています。「国家の品格」の中で私が「時限核爆弾」と言ったサブプライムの問題が国会を覆っています。一年前の数字ですが、残高が1兆円の6万倍あります。去年、ドイツのG7では格付けに少し規制を加えようという話が上がったのですが、アメリカや日本が猛反対したのです。戦艦やタンカーに例えてみると、これらの船は多くの隔壁で区切られています。それは1箇所の破綻が全体に及ばないようにしているわけです。その隔壁を作るにはお金もかかるし時間もかかります。しかしそれを全部取っ払ってしまっているのが現在のグローバリズムです。お金や時間はかかりませんが非常に全体が不安定になります。つまり、サブプライム問題というのは、アメリカの住宅ローンの問題、要するに国内問題であるのになぜ世界中が震えなければならないのかということです。他のものが自由に動くというのは確かに効率的な取引ですが、多くのものを傷つけているということを忘れてはいけません。そもそも、長期にわたって市場原理で発展した国というのはどこにもありません。自由競争ということで皆がいつでも競争し、そのため神経が参ってしまいます。そして精神力ウンセラーが大勢必要となる…。そういう国になってしまうのです。

日本人というのは昔から「お互い様」という考えを持っていて多少のことには我慢してきました。それが最近では何でも訴えるという最悪の国の真似をするようになってきました。アメリカでは病院も

もう一つはロータリーの公共イメージを高めようということです。ロータリーの意義を知れば、共に働いてくれる世間の人もあるでしょうし、これからますますロータリーにあこがれて入ってくる方もあるでしょう。そのためには是非この努力が必要だと思います。もう一つはクラブを超えたロータリーの提携。ロータリアンにはクラブの中で色々な技術の指導をしていただいています。しかしながら今後これだけの集団を指導していくためには、例えば区内で色々な知識のある人たちと協力していくなどして、今の指導体制を変えなくてはならないと感じております。

もう一つは奉仕の支援を皆で理解しようということです。

ロータリー財団、米山奨学会は知れば知るほど立派な具体的な展開をしており、これはこのロータリーの誇るべき功績であることは間違いありません。その人たちがやがて世界を動かし我が国を支えてくれる人になりつつあるのです。

そしてロータリーではよく「友情」という言葉が使われます。一部の方が発端となってこのような会を催し、その会に全ての人たちが集まって理念や理想を皆で実現することこそがロータリーの友情です。これは西名古屋地区12クラブの皆様の見事な団結力だと思います。本当におめでとうございます。

## 次期西名古屋分区ガバナー補佐挨拶

名古屋瑞穂RC:近藤雄亮さん



次年度のガバナー補佐を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願い致します。

今、地区社会奉仕委員長をされておられます名古屋東南RCの伊藤秀雄さんがAEDの普及をかなり熱心にされており、私の会社も大変微力ではありますが協力させていただきました。

その折に、講師の方から色々な話を聞かせて頂きましたのでそれを紹介したいと思います。

まず、倒れた人がいたら「素通りするのではなく声をかける」という小さな勇気です。次に、その人が息をしているかを確かめるために顔のそばに耳を近づけ、見て、聞いて、感じて判断してください。そして近くの人に声を掛け、それぞれの人を指さしながら具体的に仕事をお願いすることが必要であるということです。

ロータリー活動をやっていく上においても、やはり少しの勇気が必要だと思います。ロータリーの皆さんもそうでない皆さんも、ロータリーが何をしている集まりなのかを見て、聞いて、感じるということが大切であると思います。

私はガバナー補佐という大役を務めさせていただきますが、ガバナーの方針に従って皆さんをお願いすることが多々あると思います。そのときに「皆さんよろしくお願いいたします」ではなく「xxロータリーの皆さんよろしくお願いいたします」や「○○ロータリーの○○さんよろしくお願いいたします」というように名指しでお願いするときはロータリーの友情をもって快く引き受けていただけるとありがたいです。西名古屋分区のために頑張ってくださいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

## 次期I.M.ホストクラブ会長挨拶

名古屋瑞穂RC:松井善則さん



私どものクラブはガバナー補佐のバックアップをし、より優れた大会を開催したいと考えております。

特に、次年度は分区大会がありますので一生懸命団結して行きたいと思っております。ぜひより多くの方のご協力をお願いをしまして私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

学校も会社も専属の弁護士をかかえていると言います。そうでないとひっきりなしに訴訟があるため、それだけでものすごくお金がかかってしまうのです。誰もが相手を警戒して人を信用しません。

しかし一番困ったことは、この市場原理というのも一応論理が通っているということです。もちろん数学的論理もきちんと通っているのです。が、論理的というのはどういう意味かという、「短期的」であるということです。長期的なこととは何一つ論理的には考えられないものなのです。例えば十年先の日中関係がどうなるかということは誰一人わかりません。あまりに多くの不安要素がありすぎ、論理的には考えられないのです。要するに、論理的というのは全て短期的視野であるということです。

このような短期的視野で今まであらゆる改革がされてきました。郵政改革が良い例です。今、元に戻そうという意見が自民党の中でも出ているそうですが、当然のことです。実際、ニュージーランドなどは民営化してからまた元に戻しています。官から民にしなければならないものは山ほどありますが、官に頑張ってもらわなければならないものも同様に山ほどあるのです。

経済だけではなく日本のありとあらゆるものがそうです。日本の初等中等教育、それは世界でもダントツに優れたものでした。例えば子供達の国語力。何%の人が字を読むことができるかという識字率は、江戸時代ですでに全国平均50%を超えていました。当時最も発展していたロンドンですえ、当時の識字率は25%程度であったと言われています。イギリスや他の先進国はそんな日本を見て、この国を植民地にすることはできないと思ったのです。それが、今では先進諸国の中で日本の算数の順位は10位。国語は15位。山ばかりで資源もほとんどなく人口も少なく、あるのは頭脳だけと思ってやってきた日本ですがそれもなくなってしまいました。日本の優れた頭脳があったのは初等教育のおかげだったのです。

1980年代、日本の経済は世界で一人勝ちでした。そのとき世界は嫉妬と羨望から「日本はずい。日本にしかできない資本主義、経営方式をとっている」と言ったものです。それが90年代にちょっとつまずいただけで日本人はその方式をあとという間にながかり捨ててしまいました。お金と自信がなくなってしまったからです。今、国民が教育について何を言っているかという「先進国の学力順位1位のフィンランドの真似をしよう」ということです。そんなことではなく、日本は戦前の「読み書き」「そろばん」からやり直せばいいのです。

日本の医療制度も世界ですっとナンバーワンでした。アメリカは15位で、それは先進国中で最低順位でした。が、日本は今、自国の医療制度を壊し、アメリカの真似をしようという意見が出ています。何もかも世界の真似をし、日本が本来持っていた素晴らしいものを片っ端から壊しているのです。

政治家がしなければならないことは、国民が深い心の中で何を不満に思っているのか、何を不安に思っているのかを洞察することです。そして改革をすることが重要です。

この市場原理とは、政治や医療だけでなく色々なところに入り込んでくるのです。日本とはもともと、金銭とは最も遠い国でした。フランシスコ・ザビエルは、貧乏な侍が金持ちの町人に尊敬されていることをとても不思議がったそうです。アメリカの人は当時の日本を見て「日本には貧乏人は存在するが貧困は存在しない」と言いました。

それが今ではすっかり金銭至上主義に変わってしまいました。いつでも形勢を見て、有利な方につくのが賢いとされるようになりました。大人は法律に触れないことであれば何でもし、世界には法治国家であることを威張っていますが、法律で人間の行動を規制するということは恥ずべき事だと私は考えます。昔の日本のように道徳的な人間の心で動くことこそが世界でダントツの治安を生んでいたのです。

現在のこの国をどうにかしなければならないことは皆が思っていることです。そのためにはまず教育をどうにかしなければならないということも皆が気付いているのですが、それがなかなか

まくいきません。なぜなら国民が子供中心主義だからです。大人が中心となり、子供が傷つくことを恐れず厳しく教育しなければなりません。忘れてならないことは、学校の時間というのは1週間でたったの20数時間しかないということです。小学校では、英語や株などを教える前に国語、算数をたたき込むことが何より重要なのです。私は、日本人の持つ美しい情緒、自然への繊細な感受性は世界でも飛び抜けていると思います。このような人々は他国の人の同じ思いを理解できるわけです。弱者敗者への思いやりをこれからのキーワードにしなければなりません。それが幸せへの第一歩なのです。

## 謝辞

### 山内芳郎I.M.実行委員長

謝辞を申し上げます。先生は文学者であり、教育者であり、哲学者であり、経済にも非常に精通しておられます。類い希なる超多才な能力をお持ちの方でございます。それ故に、現在約260万部という超ベストセラーの「国家の品格」を出版されました。そしてただいま講演で、日本の課題や問題点をわかりやすくユーモアたっぷりで淡々と、また一刀両断のもとにお話いただきました。本当にあつという間の一時間半でございました。どうもありがとうございました。私なりに表題の「取り戻そう!」というのは何を取り戻すのだろうかということを考えながら先生のお話を聞いていたのですが、まず「美しい情緒」そして「知的感受性」とは「卑怯になってはいけない」という心を取り戻すことが今後の日本のあるべき姿であると感じました。

最後になりましたが、本日の講演にあたり奥様と何度かメールの交換、電話をさせていただきました。非常に心温かい方でした。お世話になりましたとくれぐれもよろしくお伝えくださいませ。先生のますますのご活躍とご健勝を心よりご祈念申し上げます。謝辞とさせていただきます。

## 閉会のことば

### 野口昌良ホストクラブ会長エレクト

本日は西名古屋分区のINTERCITY MEETINGに多数ご参加いただきまして誠にありがとうございます。名古屋中RCとして、「取り戻そう!日本人の誇りと自信を」というテーマで会を開催させていただきました。ただいまお話いただきました藤原先生の素晴らしいお話の数々が、私ども当地区のロータリアンにとって明日からの視点のために必ず役に立つのではないかと思います。重ねて多数のご参加を感謝致しまして閉会のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



## 第二部 懇親会

### 懇親会スケジュール

18:15 懇親会開会	司会 鈴木謙一郎さん
歓迎のこたば	伊藤秀樹ホストクラブ会長
特別出席者代表挨拶	盛田和昭バストガバナー
乾杯	加納 泉バストガバナー
会食	
アトラクション 日本の心のうた	うた…岡本加代子さん ピアノ…加藤修滋さん
ロータリーソング斉唱	ソングリーダー 近藤直樹さん
19:45 閉会のこたば	鈴木 強ホストクラブ副会長

### 懇親会風景



◀伊藤秀樹ホストクラブ会長による  
歓迎のこたば

▼アトラクション 日本の心のうた



### 出席報告

会員71名 出席39名 (出席計算人数51名)

出席率73.6%

2月14日は補填により 96.7%

### 臨時例会変更のお知らせ

名古屋北		2/29(金)		
名古屋東		2/25(火)		3/10(月)
名古屋守山		2/27(水)※		3/12(水)
名古屋みなと	2/22(金)			3/14(金)※
名古屋東南		2/27(水)※		
名古屋中	2/18(水)			
名古屋和合		2/27(火)※		3/12(水)※
名古屋名東		2/26(火)		
名古屋名北		2/27(水)※	3/5(水)	
名古屋栄	2/18(月)※			3/10(月)◆
名古屋名南	2/19(火)※			
名古屋昭和		2/25(月)	3/3(月)	
名古屋西南	2/21(木)		3/6(木)	
名古屋錦	2/19(火)	2/26(火)		
名古屋東山	2/21(木)			3/13(木)
名古屋葵		2/28(木)※		
名古屋あま				3/10(月)
名古屋清須	2/19(火)※	2/26(火)※		3/11(火)※
名古屋城北		2/26(火)		3/11(火)※

(注) ※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。

◆はサイン受付が17:00~18:00となります。

### 今週卓話

2月28日(月)

会員卓話: 高村 博三さん

テ - マ: 台北延平RCとの交流について

### 次週卓話

3月6日(木)

卓話講師: 愛知医科大学副院長 高度救命救急センター教授  
野口 宏さん

テ - マ: AEDと最近の救急医療について